

鎌倉へドライブ予定の高橋は、給油のためガソリンスタンドに入った。「いらっしやいませ！」という元気な声が店内に響き渡り、店員の一人が高橋の車を誘導した。

「オーライ、オーライ・・・」手招きで給油機の近くまで誘導された高橋は、「ストップ」という合図で車を止めた。

「いらっしやいませ！ 今日はどうなさいますか？」

「レギュラー満タンと洗車をお願いします」

「かしこまりました。お支払はカードですか？ 現金ですか？」

「現金をお願いします」

「洗車の方は、水洗い洗車とワックス洗車がございますが」

「ワックス洗車にしてください」

「かしこまりました」

高橋はガソリンの注入口を開いた。そして、

「たばこの吸い殻、ゴミなどはごいませんか？」という店員の問いかけに、

「あ、この空缶捨ててもらえますか？」と言ってコカ・コーラの空缶を差した。店員はそれを受け取ると、

「お客様、洗車の間、中の椅子にお掛けになってお待ち下さい」と笑顔で言った。高橋は店内に入り、自動販売機でタバコを買って椅子に腰掛けた。車は既に洗車場へと移動させられて、間もなく洗車が始まるころだ。しばらくすると、

「黒のクルマのお客様！」洗車をしていた店員の一人が中に入ってきた。「オイルの量がだいぶ減っています、色もかなり変わっていますので、そろそろ交換の時期かと思うんですけど、どうなさいますか？」小さなガラス瓶に入った茶褐色の液体をかざしながら店員が言った。

「お願いします。エメレントの交換もしてください」少し考えて高橋は答えた。「かしこまりました」

それからしばらくすると・・・

「黒のクルマのお客様、お待たせいたしました。洗車の方が終わりましたので、お会計の方よろしいですか。レギュラー満タンとワックス洗車、それにオイルとエメレントの交換で、一万五千五百五十円になります」

「一万五千六百円からお願います」

「一万五千六百円ですね・・・お返しが五十円になります」

高橋は支払いを済ませると、洗車されたばかりのピカピカの車に乗り込んだ。

「お帰りはどちらの方向ですか？」

「鎌倉方面です」

「かしこまりました」店員は走行中の車を止めて高橋を大通りへと誘導し、

「ありがとうございます！ またお越しください」と言って深々と頭を下げた。

「ありがとう！」青木も軽く会釈をすると、目的地の鎌倉へと向かった。